

# Life is so precious!

仕事も人生も もっと楽しく! 美しく! — 2

撮影/Hanna Teleman 取材/Chieko Yahagi lundberg

## 世界各国キャリアへ、5つの質問

- Q1 仕事の成功のためにしている習慣は?  
つねに、現在の仕事に全力を注ぐ。その先のキャリアは考えない。
- Q2 バッグに必ず入っているもの3つは?  
リップスティック、携帯、カギ。
- Q3 あなたの街のストレス解消スポットは?  
自宅のソファ。顔が知られているので、外ではリラックスできない。
- Q4 理想の週末の過ごし方は?  
美容院に行って髪をきれいしてもらった後、友人と夕食を楽しむ。
- Q5 人に言われてうれしいほめ言葉は?  
「私たち(移民)のために力を尽くしてくれて心から感謝している」

## 多くの移民が暮らす国で 「社会統合」を目指して 活動を続ける信念の人

エンジニアリングコンサルティング会社 サステナブル・マネージャー  
ニヤムコ・サブーニさん

45歳。2歳のときに政治難民としてコンゴから移住。大学を中退して非営利団体「アフリカ スウェーデン協会」を設立。2002年に国会議員となり、インテグレート大臣、教育・平等大臣を歴任。現在はコンサルティング会社でCSR(企業の社会的責任)部門を統括。



移民大国といわれる北欧諸国のなかでも、スウェーデンは、人口に占める移民の割合が最も高く、現在でも多くの移民を受け入れている。そんななか、自身も移民であるニヤムコさんは、初の黒人女性大臣として10年間にわたって政治の世界で活躍した。両親はコンゴ共和国出身。2歳のときに政治難民として家族でスウェーデンに移住してきた。大学時代には法律と移民政策を学び、非営利団体「アフリカ スウェーデン協会」を設立。読み書きのできないアフリカ人女性の支援を始めた。「社会の中でアフリカ人が差別を受けていたこと、スウェーデン人がアフリカ

リカのことをよく知らないと感じたことが、協会設立の大きな理由でした。貧困、病気、援助といったイメージだけでなく、もっと本当のアフリカを、自分たちのことを知ってほしい、という政策提言の意味もあつたんです」  
大手保険会社で働いた後、PR会社に勤めていたときに、自由党党首から連絡があり、国会議員として政治の世界へ。1歳の双子を夫とともに育てながら、移民問題に取り組んだ。'06年、インテグレート(社会統合)大臣に就任。'10年には教育・平等大臣に任命され、2年間務めた後、現在は大手コンサルティング会社で、民間の立場から

精力的に移民の支援に携わっている。「難民の人たちがスウェーデンを目指すのは、生活補助金目当てではありません。仕事をみつけ、子供たちに教育を受けさせ、自立して生きていこうとしているのです。必要なのは単なる資金援助ではなく、自立のための支援。現在も、コンゴ、スーダン、ソマリアなどのアフリカ諸国から、多くの戦争難民が移住してきています。私がやるべきことは、まだまだたくさんある」  
仕事への活力は、「黒人であり、移民であり、女性であるという自分の価値を認識すること」。揺らぐことのない自尊心が、社会を、国を変えていく。

# STOCKHOLM

